

【資料掲載場所】

かながわの水質事故 (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/suisitu/hassei/joukyou.html>)

令和7年度水質事故発生状況

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
4/2	小田原市	山王川	久野川	久野		○		事業所	市民から油浮遊の通報があり、市の調査により事業所のエンジンオイルのタンクのコックが開いていたことが原因であると判明した。市が河川に流出した油の回収及び事業者へ流出防止の指導を行った。
4/2	逗子市	湾(運河含む)	小坪川	小坪		○	白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市の現地調査により海域まで到達していることが確認された。市が原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
4/8	伊勢原市	金目川	板戸川	鈴川		○	濁水	工事	市が板戸川と水路が合流する地点にて濁水が流れていることを発見した。現地調査の結果、解体工事現場からの排水が原因であることが判明した。原因者に対し、濁水の排出停止及び事故報告書の提出を指示。生物への影響はなかった。
4/22	三浦市	湾(運河含む)	—	城ヶ島		○		事業所	着岸中の船が船内に残った海水を排出する際に、配管バルブの動作不良により機械油もともに排出した。原因者がオイルフェンスを設置。東部漁港事務所及び水産技術センターが原因者に対し顛末書の提出等を指示。生物への影響はなかった。
4/22	逗子市	田越川	—	小坪		○	白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、東逗子橋から中原橋で白濁が確認された。市が付近の事業所に聞き取りを行ったが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
4/25	三浦市	湾(運河含む)	—	松輪		○		不明	市民から間口漁港で油が浮遊しているとの通報があり、市が現地調査を行った。市が原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
4/25	秦野市	金目川	—	蓑毛		○	白濁	工事	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市の現地調査の結果、上流側の河川工事が原因であることが判明した。河底の砂や岩が削れて白濁水が生じたものと考えられ、生物への影響はなかった。
5/9	海老名市	相模川	貫抜川	河原口	○			不明	厚木保健福祉事務所から用水路で魚が死亡しているとの通報があり、市、県央地域県政総合センター、海老名警察署、寒川浄水場、水道水質センターが現地調査を行った。最終的にコイ等55匹の死亡が確認された。付近の事業者に聞き取りを行ったが、発生源を特定できなかった。
5/12	小田原市	山王川	山王川	中町		○		工事	県民から芦子橋で油が浮遊しているとの通報があり、市の現地調査の結果、河川工事が原因であることが判明した。小田原土木事務所小田原土木センターがオイルフェンスを設置し、原因者へ油の回収及び再発防止策等の指導を行った。生物への影響はなかった。

【資料掲載場所】

かながわの水質事故 (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/suisitu/hassei/joukyou.html>)

令和7年度水質事故発生状況

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
5/19	鎌倉市	神戸川	—	津西			○ 濁水	工事	市民から河川が濁っているとの通報があり、市の現地調査の結果、道路工事が原因であることが判明した。市が原因者に対し、河川・側溝等の堆積物の除去及び顛末書の提出を指示。生物への影響はなかった。
5/23	逗子市	湾(運河含む)	小坪川	小坪			○ 白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市、消防及び警察が現地調査を行った。海域への到達は確認されず、生物への影響はなかった。
6/16	秦野市	酒匂川	濁沢から四十八瀬川	八沢			○ 白濁	事業所	市民から事業所より白濁水が漏洩しているとの通報があり、原因者に確認したところ、原乳をタンクへ移送する管の途中のバルブが緩んでいたことが原因であること判明した(漏洩量400kg)。原因者へは流出防止を指示。生物への被害はなかった。
7/3	厚木市	相模川	善明川	長坂境橋	○			不明	厚木市生活環境課が善明川で油の流入を確認。市がオイルマットを設置。市が原因調査をしたところ、付近の火災由来の可能性があったが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
7/6	茅ヶ崎市	湾(運河含む)	—	汐見台雨水幹線			○ 白濁	事業所	茅ヶ崎市汐見台の2号水路(雨水吐出口)における白濁水の流出について、市民から茅ヶ崎市役所に通報。原因是、市内事業所敷地内の清掃作業による白濁水の流出と判明。市はオイルフェンスを設置し、原因者へ白濁水の回収及び流出防止等を指示。水質検査を行ったが有害物質等は検出されず、生物への影響はなかった。
7/10	開成町	酒匂川	要定川	延沢			○ 発泡	不明	市民から汚れた排水が流れていると飯泉取水管理事務所に通報。同事務所が現場確認をしたところ、発泡を確認したが、原因是特定できなかった。生物への影響はなかった。
7/16	寒川町	相模川	小出川	岡田	○			不明	町下水道課が油浮遊を確認。町はオイルフェンスを設置。原因是特定できなかったが、生物への影響はなかった。
7/20	藤沢市	引地川	—	秋本橋～引地橋	○			不明	市民から引地川に死亡魚が数百匹いると市環境保全課に通報。死亡魚200kgを回収。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
8/3	葉山町	森戸川(葉山)	利根山川	堀内			○ 白濁	工事	町民から白濁水があると葉山町役場あて通報。原因是、水性ペンキが付いた刷毛を洗浄した際に、白濁水が河川へ流出したものと判明。町は原因者へ流出防止及び回収を指示。生物への影響はなかった。

【資料掲載場所】

かながわの水質事故 (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/suisitu/hassei/joukyou.html>)

令和7年度水質事故発生状況

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
8/14	茅ヶ崎市	相模川	千ノ川	高田	○			不明	茅ヶ崎市職員が死亡魚を発見し、茅ヶ崎市環境保全課へ連絡。小魚等約100匹の死亡魚を回収。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
8/21	平塚市	金目川	渋田川	東豊田		○		事業所	平塚警察署から湘南地域県政総合センターあてに油膜がある旨連絡。原因是、オイルタンクが破損し、重油が水路へ流出したものと判明。市は、オイルフェンスを設置すると共に、原因者へ油の回収等の流出防止対策を指示。生物への影響はなかった。
8/25	三浦市	湾(運河含む)	—	松輪		○		不明	漁業協同組合関係者から漁港に油浮遊を発見した旨、関係各所に連絡。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
10/1	座間市	相模川	目久尻川	南栗原		○		不明	市民から目久尻川に油が浮遊していると座間市生活安全課に通報。市は油浮遊範囲にオイルフェンスを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
10/3	鎌倉市	境川	関谷川	関谷		○		工事	市民から関谷川に油が浮遊していると鎌倉市環境保全課あて通報。原因是、解体工事現場の灯油タンクが破損したため、灯油が約2リットル流出したものと判明。市は油浮遊周囲にオイルマットを設置し、原因者に顛末書の提出を指示。生物への影響はなかった。
10/16	寒川町	相模川	小出川	大曲		○	発泡	不明	町民から排水路に白い泡状のものがあると寒川町下水道課あて通報。市は周囲にオイルフェンスを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。また、簡易水質検査を行ったが有害物質等は検出されなかった。生物への影響はなかった。
10/22	山北町	酒匂川	尺里川	向原		○		不明	飯泉取水管理事務所から尺里川に接続する水路に油膜があると県西地域県政総合センターあて通報。ごく小規模であるため、オイルマットの設置はせず。臭気試験結果は臭気強度3。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
10/29	鎌倉市	滑川	—	浄明寺		○	白濁	不明	市民から滑川が白濁していると鎌倉市環境保全課あて通報。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
11/11	藤沢市	湾(運河含む)	—	江の島漁港		○		不明	海上保安庁から江の島漁港内において油漏れが発生しているとの通報があった。藤沢土木事務所はオイルマットを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。

【資料掲載場所】

かながわの水質事故 (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/suisitu/hassei/joukyou.html>)

令和7年度水質事故発生状況

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
11/15	南足柄市	酒匂川	太刀洗川	塚原		○		工事	小田原市消防本部から太刀洗川に接続する水路に油が流出したとの通報。原因は、南足柄市が発注した下水工事の機材の軽油タンクから誤って軽油約1リットルが流出したものと判明。市は原因者に顛末書の提出を指示。生物への影響はなかった。